

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600079		
法人名	有限会社 ほのぼの月寒		
事業所名	グループホーム ほのぼの音羽		
所在地	苫小牧市音羽町2丁目10-1		
自己評価作成日	2025.01.23	評価結果市町村受理日	2025.03.10

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600079-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様がその人らしくいられるよう、色々なことを制限せず、自由に過ごして頂けるよう支援している。
生活しやすい環境整備や、衛生管理は徹底している。観葉植物コーナーをつくり、癒しの空間で、精神を安定して頂けるよう支援している。
入院者を出さぬよう、医療連携して、訪問看護、往診医と情報共有している。脱水にならぬよう水分摂取量には特に気を付けている。
毎日の生活に楽しみを持てるようにレクなども考えたくさん笑っていただけるような支援をしている。
普段出ないような食事で食べたいものを聞き、施設長自らの手料理で、施設長ランチDAYとして月1回提供している。
外出行事や野外レクなどより多く企画するよう配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路に程近い距離の静かな住宅地に位置する開設19年目を迎えた2階建て2ユニットの事業所である。周辺には町内会行事を行う会館や公園、保育園が隣接し至便な環境にある。施設の環境美化も継続しており、香りへの対応や観葉植物コーナーを設けたり、施設長と職員協働のDIYや物の配置等の空間活用も温かみがある。今年度、新たな地域交流では、事業所夏祭りに放課後等デイサービスの子供達が訪れ、一緒に縁日を楽しむ機会が持たれ、ボランティアによるウクレレ演奏の協力も得ている。散歩時や敬老会での保育園児との触れ合いも引き続き行われている。外出支援に優れ、周辺環境を活かした散歩以外に、埠頭のある公園やサンガーデン、ウトナイ湖、歌謡ショー鑑賞など多様な場所へ出かけている。法人バックアップによる、オンデマンド研修を毎月実施し、グループワーク学習も取り入れている。楽しい食の提供では、昨年2度開催した戸外BBQや、おやつ作り、毎月恒例の施設長手作りランチも利用者に大人気である。毎月、家族へほのぼの日和通信を送付し、家族等の希望に応え終末期支援に尽力している。頻回なトイレ通いであった利用者が、家事作業を担える環境を整えた結果、失禁も無くなり他者との会話も増えた方や、日中も居室に入りすぐに寝てしまう方では、リビングの座席変えにより会話やテレビにも集中ができ、夜間の安眠につながった利用者もいる。個々の困難な状況を紐解き、利用者のより良い生活を支えている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほほとんど掴んでいない				4. ほほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほほとんどない				4. ほほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほほとんどいない				4. ほほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほほとんどいない				4. ほほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほほとんどいない				4. ほほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に掲げられている「気づき思いやり」でいち早くお客様の変化に気づくよう情報共有している	企業理念をパンフレットに明示し、地域密着型の役割や意義を盛り込んだ3項目からなる運営理念を事業所内要所へ掲示している。毎月の全体会議のレジュメに理念を載せ、読み上げるなどして共有に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園児に訪問してもらったり、地域のかたと触れ合ったり、交流を深めている	町内のゴミ拾いへの参加や町内からウエスの寄贈がある。ウクレレボランティアの訪問や子ども神輿の立ち寄り、敬老会には保育園児が来訪し利用者1人ひとりへタオルのプレゼントや歌を披露している。事業所夏祭りに放課後等デイサービスの利用者が来所し、縁日やゲームなどで交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	連絡を取り合い、認知症への理解をしてもらっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を開催しできるだけ多くの方に参加してもらえよう促している、ウクレレサークルボランティアを紹介してもらえた	会議では、入居者状況の他、事故や研修、活動内容を分かりやすく報告し、現状の施設の課題も提示している。議事録に持ち越しの検討事項欄を設け、課題や今後に向けての取り組みを記載し透明性を確保している。議事録と共に意見・要望を聞く家族アンケートを送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所や、居宅支援事業所、病院等に日頃より、連絡を取り、情報共有している	市の担当部署へ施設長が直接出向き書類提出の他、メールでの届出等を行っている。運営推進会議に介護福祉課担当者の協力を得ている。今年度、生活支援課担当者と相談、連携し、生活保護の利用者の特別養護老人ホームへの移行支援を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ活動は日頃より、しており、やむ負えない場合があったとしても、どう対応すればいいのかを職員間で考え、拘束しないようにつとめている	身体拘束等適正化に係る指針を定め、定期的に委員会を開催している。身体拘束はしておらず、委員会では身体拘束になりうる場面やグレーゾーンを職員間で話し合い、拘束について学んでいる。これらに係る内部研修は職員個々によるeラーニング学習と資料を元にグループワークを実施している。防犯上の理由により玄関は24時間施錠している。	

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い周知している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い周知している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	しっかりと時間をかけ説明をし、あとからトラブルにならぬよう、丁寧に説明させていただいている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々連絡を取り合っている	利用者から「帰りたい」「入浴したくない」「仕事に行く」などの意見、訴えが出た時は安心できる対応を行っている。家族とは電話や面会時の他に、3か月に1度、介護支援専門員が直接、意見等を聴取し、介護計画等へ反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等をし、意見交換、情報共有周知している	半年に1度の施設長による個別面談に加え、新人職員面談は回数を多く設定している。毎月、全体会議と各ユニットごとのスタッフ会議を実施して運営の周知や意見交換、情報共有を行っている。運営に主体的に臨めるよう、各委員会に職員が所属し活動している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が負担にならぬよう、平等になるような勤務形態にするよう心掛けている。お願いしなければいけない時にはきちんと口頭で本人にお願いしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンデマンド研修や他拠点への実習等も行い、職員の質の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	意見交換の研修に参加して頂いている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お客様とのコミュニケーションをとるような働きかけはしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意見を聞くよう連絡は密にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りはしっかりしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションをしっかりとるようにしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コミュニケーションをしっかりとるようにしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	聞き取りはしっかりしている	家族や親族との面会は居室で対応し、電話は家族からの取り次ぎや本人の希望等により対応している。市内名所へのドライブ外出、家族との墓参や葬儀参列、買い物や選挙に出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションをしっかりとるようにしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コミュニケーションをしっかりとるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様が何を求めているのかしっかりと理解できるように普段からかかわりを持つよう心掛けている	職員は利用者との日常の関わりの中で、今、何をしたいか、何が必要かの理解に努めて、把握した内容を職員間で共有し、本人の視点に立ち検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートをしっかりと読むような指導をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートをしっかりと読むような指導をしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネや計画作成と協力し職員全員がモニタリングにも関わっている	毎月のスタッフ会議で利用者の変化等や望ましい支援のあり方を検討している。詳細なアセスメントやモニタリングにより今後のより良い支援を導き出し、本人、家族等の意見を反映し現状に即した介護計画を策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った介護をし、記録もしっかり記入し、その方の生活がわかるような記録を残している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員一人一人がしっかり考えて行動できるよう指導している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全な暮らしができるよう配慮している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医に相談しながら行えている	利用者全員が協力医療機関の訪問診療と歯科の訪問診療を受けられる体制で、基本、他科受診は家族対応であるが都合により適宜、通院支援を行っている。協力医療機関の看護師が毎週訪れている。毎月、訪問診療記録を家族へ送付している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報共有している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報共有している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に詳しく説明している	「重度化対応・終末期ケア対応指針」を利用契約時に説明し同意を得ている。終末期ケアを実施する場合には、医療関係者や家族等と協議しその対応方法等を個別に設定し介護計画を立てている。今年度も終末期ケアに尽力している。職員は終末期ケアに関する研修を受講している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修などで指導している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や緊急時対策などは資料を作り、周知している	年2回火災避難訓練(日中・夜間想定)を実施し、夜間想定訓練に消防署と消防設備会社の協力を得ている。地震想定訓練は3月に実施する計画がある。災害備蓄品を確保し自然災害発生時における業務継続計画を策定している。災害時に地域住民の協力が得られるよう連携の整備に努める考えを示している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自分がされて嫌なことはしないよう日々指導している	職員は、eラーニングで接遇や認知症ケアなどを学び、グループワーク形式で研修報告を提出している。施設長は、全体会議の場や必要時に指導している。	利用者の感じている日常を模倣的に職員が体感するロールプレイング学習を取り入れ、職員個々の気づきや学びにつなげていく意向を示しているのので、その実現に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	アンケートなどをマメにとり、聞き取りしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	寄り添う介護を目指している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	聞き取りをし、その人らしさを奪わないよう配慮している		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器や盛り付けなど、彩りなど目でも楽しめるような食事を心がけている。	盛り付けの工夫や半分以上の食器の入れ替えも行い彩りよく提供している。おやつ作りや外出先でのスイーツ、今年度は2度、屋外BBQを行い楽しんでいる。毎月恒例の施設長手作りランチデーも利用者から「今回は何？」と期待や待ち望む声も上がり好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分不足にならぬよう配慮している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎食後に実施している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おトイレに行ける人は行っていたき座っていただけるよう配慮している	職員は利用者個々の排泄パターンを把握しており、利用者が落ち着かずに身体を動かし出す前に声をかけ、トイレ誘導している。昼夜ベッド上で衛生用品を交換する要介護度の高い利用者もいる。日常生活の支援を見直し失禁が無くなった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	DVD体操を実施し身体を動かしていただいている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴順番は配慮している	利用者個々に入浴曜日を決め、2～3日の間隔で入浴支援を行っている。要介護度により居室に移動可能なシャワーチェアをセッティングしプライバシーへの配慮を保ちつつ浴室間移動の負担軽減を行っている。数種の入浴剤を準備し利用者の希望にも応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時に寝て頂けるよう声掛けしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情などを確かめるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみの家事や、茶碗洗いなど出来ることをしていただいている		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	晴天にはお散歩をしたり、外出行事にも力を入れている	散歩は、天候のよい時期に近隣の桜木のある公園へ行き、花見もタイミングよく楽しめている。紅葉見学やサンガーデン、船見学ができるキララ公園、ウトナイ湖、歌謡ショー鑑賞に出かけるなど、積極的に外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人にはお渡ししていないがほしいものの希望があればご家族に相談したりしながら支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	トラブルにならないよう支援している。さみしくなった場合に電話対応はしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備や、衛生保持や、癒しの空間づくりには力をいれている	施設内の清潔感や美しさ、整理整頓などの環境美化に力を入れ、利用者が居心地よく過ごせる場を整えている。リビングダイニングには利用者が見やすい位置に時計やカレンダーを掛け、テーブルや席の配置は利用者同士の関係性やテレビ視聴のし易さに配慮している。消臭対応や観葉植物コーナーも設けている。エアコンで空調を管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル配置などは気にかけてしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物をお持ちいただき、生活しやすい環境づくりをしている	居室には防災カーテン・カーペット、照明、パネルヒーターの備え付けがある。馴染みの家具や調度品が持ち込まれ、整理整頓されている。利用者の状態に応じ、レイアウトを変更して動線を確保するなど、本人の移動のし易さや安全面に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境づくりをしている		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600079		
法人名	有限会社 ほのぼの月寒		
事業所名	グループホーム ほのぼの音羽		
所在地	苫小牧市音羽町2丁目10-1		
自己評価作成日	2025.01.23	評価結果市町村受理日	2025.03.10

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600079-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様がその人らしくいられるよう、色々なことを制限せず、自由に過ごして頂けるよう支援している。
生活しやすい環境整備や、衛生管理は徹底している。観葉植物コーナーをつくり、癒しの空間で、精神を安定して頂けるよう支援している。
入院者を出さぬよう、医療連携して、訪問看護、往診医と情報共有している。脱水にならぬよう水分摂取量には特に気を付けている。
毎日の生活に楽しみを持てるようにレクなども考えたくさん笑っていただけるような支援をしている。
普段出ないような食事で食べたいものを聞き、施設長自らの手料理で、施設長ランチDAYとして月1回提供している。
外出行事や野外レクなどより多く企画するよう配慮している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年2月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほほとできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほほとない				4. ほほとない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほほとない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほほとない				4. ほほとない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほほとない				4. ほほとない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほほとない				4. ほほとない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほほとない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に掲げられている「気づき思いやり」でいち早くお客様の変化に気づくよう情報共有している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園児に訪問してもらったり、地域のかたと触れ合ったり、交流を深めている		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	連絡を取り合い、認知症への理解をしてもらっている		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を開催しできるだけ多くの方に参加してもらえよう促している、ウクレレサークルボランティアを紹介してもらえた		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所や、居宅支援事業所、病院等に日頃より、連絡を取り、情報共有している		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ活動は日頃より、しており、やむ負えない場合があったとしても、どう対応すればいいのかを職員間で考え、拘束しないようにつとめている		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い周知している		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い周知している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	しっかりと時間をかけ説明をし、あとからトラブルにならぬよう、丁寧に説明させていただいている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々連絡を取り合っている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等をし、意見交換、情報共有周知している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が負担にならぬよう、平等になるような勤務形態にするよう心掛けている。お願いしなければいけない時にはきちんと口頭で本人にお願いしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンデマンド研修や他拠点への実習等も行い、職員の質の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	意見交換の研修に参加して頂いている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お客様とのコミュニケーションをとるような働きかけはしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意見を聞くよう連絡は密にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りはしっかりしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションをしっかりとるようにしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コミュニケーションをしっかりとるようにしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	聞き取りはしっかりしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションをしっかりとるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コミュニケーションをしっかりとるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様が何を求めているのかしっかりと理解できるように普段からかわりを持つよう心掛けている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートをしっかりと読むような指導をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートをしっかりと読むような指導をしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネや計画作成と協力し職員全員がモニタリングにも関わっている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った介護をし、記録もしっかり記入し、その方の生活がわかるような記録を残している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員一人一人がしっかりと考えて行動できるよう指導している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全な暮らしができるよう配慮している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医に相談しながら行っている		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報共有している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報共有している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に詳しく説明している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修などで指導している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や緊急時対策などは資料を作り、周知している		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自分がされて嫌なことはしないよう日々指導している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	アンケートなどをマメにとり、聞き取りしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	寄り添う介護を目指している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	聞き取りをし、その人らしさを奪わないよう配慮している		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器や盛り付けなど、彩りなど目でも楽しめるような食事を心がけている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分不足にならぬよう配慮している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎食後に実施している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おトイレに行ける人は行っていていただき座っていただけるよう配慮している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	DVD体操を実施し身体を動かしていただいている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴順番は配慮している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時に寝て頂けるよう声掛けしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情などを確かめるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみの家事や、茶碗洗いなど出来ることをしていただいている		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	晴天にはお散歩をしたり、外出行事にも力を入れている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人にはお渡ししていないがほしいものの希望があればご家族に相談したりしながら支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	トラブルにならないよう支援している。さみしくなった場合に電話対応はしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備や、衛生保持や、癒しの空間づくりには力をいれている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル配置などは気にかけてしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物をお持ちいただき、生活しやすい環境づくりをしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境づくりをしている		